

# 2007 第3回東大本番レベル模試 優秀答案

## 第1問 (福岡県T君の答案)

10世紀、浮浪・逃亡の増加により戸籍・計帳制度が崩れたため、租税の対象が人民から土地へと変化した。また、国司は、一定額の租税の納入を政府に約束する代わりに、地方統治を委ねられ、徴税請負人化したため、公田を名に編成し、負名に耕作させたり、農民に対し、極端な増税を行うなど私利を求めた。国司の増税を禁止し、民衆の訴えを鎮静化するために、税率を全国一律にした。

R

$2+2+2+2+2+2+2+2+R2=18$  15点

### コメント

第1問は、出題形式を2007年度に準拠させ、内容的にも本番直前の時期に学習不足はありえないというテーマ(国司の地方支配)をとりあげたため、想定どおり、続々と満点の答案が生まれた。ただそのうちの何人かは、「論理構成点」に救われたかたちで15点を与えられたものだった。

ここにとりあげたのは、内容だけで軽々と15点ラインを突破した答案例のひとつ。後半部の記述がやや平板で、文章の接続がぎこちなくなっているものの、「問題の限定と要求に忠実な論理展開」にこだわった姿勢が光っている。苦戦を強いられた諸君は、この問題のどこで思考回路が変形もしくは断絶してしまったのかを確実に再点検しておきたい。本番でとりこぼすことは許されないからである。